

小川芋銭研究センターの機能を一部移転しました

昨年7月1日、小川芋銭研究センターを城中町にある芋銭の旧居「草汁庵」内に開設しました。同センターでは、芋銭研究を中心にセンターに訪問される方の対応やホームページの開設更新などを行っており、センターの存在が全国的に知られるようになりました。

今年度は3月に実施した第1回芋銭検定に引き続き、第2回を8月に、第3回を来年2月に実施するほか、11月には2年に1度開催する小川芋銭展を開催するなど大きなイベントが控えています。

芋銭顕彰の拠点としては、現在の草汁庵はこの上ないところですが、拡大する事業を行うには手狭なため、今年3月末に閉署された牛久消防署西部出張所の建物に、小川芋銭研究センターを移転することとなりました。

しかし、出張所を研究センターとして使用するには大きな改修が必要となるため、当分の間は、草汁庵と西部出張所の2カ所で研究センターを稼働させ「小川芋銭研究・情報発信は牛久から」を押し進めることとなりました。正式な移転期日は決定次第お知らせします。

※芋銭のことで、分からないことがありましたら、下記までご連絡ください。

問い合わせ 小川芋銭研究センター(城中町1888旧牛久消防署西部出張所(市立牛久第三中学校向かい)) ☎828-7985 ※火～金曜日午前9時～午後5時開館。



聖小川芋銭

再び芋銭を考える⑦

これまで芋銭について語られてきた事柄を、確実な資料によって見直してみようとするこの連載も、回を重ねて7回目になりました。

芋銭を再検証するこのような試みは、実は牛久では数年前から行われていました。市が主催する小川芋銭展(シャトーカミヤを会場とし、隔年開催。既に、第1回・第2回展が開催されました)に併せて発行された図録から、それらの試みを読み取ることができます。

第1回展図録の内容は衝撃的ですからあり、それまでの芋銭論を改めざるを得ない内容に充ち満ちています。また、第2回展図録では、芋銭装丁本のほぼすべてを見渡すことができます。

おのおの図録は28ページと薄冊ですが、内容は重複していません。今後開催される芋銭展においても同様の図録が発行されることとなりますが、展覧会は各回共に全く別の内容で構成される予定ですので、当然のことながら、図録の内容も重複することはありません。

前述のとおり、回ごとに発行される図録は、単体で見れば薄いものですが、これを合本すれば、最新の情報を備えた得難い芋銭文献(画集)ができあがります。

「小川芋銭研究・情報発信は牛久から」を旗印に、牛久市に小川芋銭研究センターが誕生しましたが、これらの展覧会図録のみを取り上げても、先の旗印に決して恥じるところはないでしょう。ただ、残念なことには、第1回展図録は完売し、入手不可となってしまいました。

部屋の隅にこれらの展覧会図録が眠っていましたら、もう一度ページをめくっていただき、新しい芋銭研究の一端に触れていただきたいと思います。



↑第1回・第2回 小川芋銭展図録

小川芋銭研究センター 北島健